

# あいさつするのも悪くない

－「心が通じる」あいさつについて考える－

- 1 学年 第6学年〔中期〕
- 2 主題名 心のこもったあいさつ〔2－（1）〕
- 3 ねらい 「ぼく」の気持ちを考えることを通して、礼儀正しく、相手の立場に立って心のこもった接し方をしようとする心情を育てる。
- 4 資料名 「あいさつするのも悪くない」
- 5 展開

	学習活動と主な発問	児童の反応	指導上の留意点
導 入	1 自分たちのあいさつの様子について振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高学年になるにつれて自分からあいさつしていない。</li> <li>・ まったくしていない人もいる。</li> </ul>	○ アンケート結果をもとに話し合わせることで、身近な問題であることを感じさせる。
展 開	<p>2 資料「あいさつするのも悪くない」を読んで話し合う。</p> <p>○ ぼくは、月曜日にどんなことを考えながらあいさつ運動をしたのでしょうか。</p> <p>◎ 花子があいさつ運動をする姿を見て、ぼくはどんなことを考えたでしょう。</p> <p>○ ぼくが、「あいさつするのも悪くない。」と思ったのはなぜでしょう。</p> <p>3 自分たちの生活を振り返って話し合う。</p> <p>○ 「心が通じた」と感じられたことはありませんか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ あいさつしたのに返してくれない。腹が立つなあ。</li> <li>・ もう二度とやりたくない。</li> <li>・ 花子にあいさつしてもらおうとうれしい気分になる。</li> <li>・ 自分のあいさつには心がこもっていない。はずかしい。</li> <li>・ あいさつが返ってくるとうれしいから。</li> <li>・ ぼくが、心のこもったあいさつをしたからあいさつが返ってきたと思う。</li> <li>・ 自分だけじゃなく相手もうれしかったから。</li> <li>・ 朝、地域の人に自分からあいさつをしたら返ってきてうれしかった。</li> </ul>	<p>○ 児童の経験も出させながら、ぼくの気持ちに共感させる。</p> <p>○ 花子があいさつ運動を行っている姿を見たときのぼくの気持ちを想像させる。</p> <p>○ 月曜日と水曜日のぼくの気持ちの変化に気付かせる。</p> <p>○ 日常生活の中で、「心が通じた」と感じられた経験を出させるとともに、その時の気持ちを言わせる。</p>
終 末	4 教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分からあいさつをしてみよう。</li> </ul>	○ 教師の体験談を話すことで実践意欲につなげる。

## 6 授業の概要

### (1) 主題について

中期の児童には、礼儀作法について正しく理解し、時と場をわきまえた適切な言動が求められるが、時として、恥ずかしい、面倒だといった気持ちもあり、心のこもったあいさつができない場面がある。

そこで、本資料を通じて、相手を尊重する気持ちが、心のこもったあいさつにつながり、自分と相手の心とを通わせることにもつながるということに気づかせたい。また、心が通じた時には、お互いの気持ちがよくなることにも気付かせたい。

### (2) 自作資料活用のポイント

#### ア 実施の時期

本資料は、年度始めに実施することも考えられるが、学校評価アンケート等で児童がこれまでの自分の生活を振り返ることができる時期に扱うとよい。

#### イ 中心場面の設定

本資料の中心としたい場面は概ね2通り考えられる。1つは、「ぼく」が花子の姿を見て自分を振り返る場面である。ここでは、「ぼく」と花子のあいさつの違いを比べさせることにより、ねらいにせまらせることができる。

もう1つは、水曜日のあいさつ運動に立った「ぼく」が初めて心の通じたあいさつを体験する場面である。ここでは、月曜日と水曜日との「ぼく」の気持ちを比べさせることにより、ねらいにせまらせることができる。

展開例では花子の場面を中心場面に設定したが、学級実態によってどちらを中心場面にしてもよいと思われる。ただし、どちらの場合も「ぼく」の心が相手を尊重する気持ちに変化したことについては押さえておきたい。

#### ウ 時間配分

「ぼく」の気持ちに共感しやすい題材であるが、資料の前半部分の「ぼく」があいさつをすることに後ろ向きであるということよりも、中心場面での話合いに十分に時間を確保するようにしたい。

### (3) 指導過程の工夫

#### ア 導入の工夫

導入では、アンケート結果や事前の聞き取り調査を提示したりする等、身近な問題として感じられるようにするとともに自分たちの日常生活を振り返らせたい。

#### イ 価値にせまるための工夫

中心場面では、「ぼく」の言葉だけを発するあいさつと心も通わせようとするあいさつとの違いに気付かせたい。このことは、水曜日の「ぼく」のあいさつ運動の場面を中心場面とした場合も同様である。

#### ウ 児童の考えを引き出すための工夫

中心場面の「ぼく」の気持ちを考える場面では、状況把握をさせるために、動作化や役割演技を取り入れるたり、月曜日の「ぼく」と花子（水曜日の「ぼく」）とを比べて書き込むことのできるワークシートを用意したりすることで児童の多様な考えを引き出すようにしたい。

#### エ 終末の工夫

模範例にこだわることなく、失敗談も含めて教師の体験を話すことで、誰もが抱える問題であり、前向きに取り組んでいくことが生活をよりよいものにしていくことに気付かせたい。

(坪内小学校 浅木森宏)